

広報つるおか特集号

令和3年度 鶴岡市決算特集



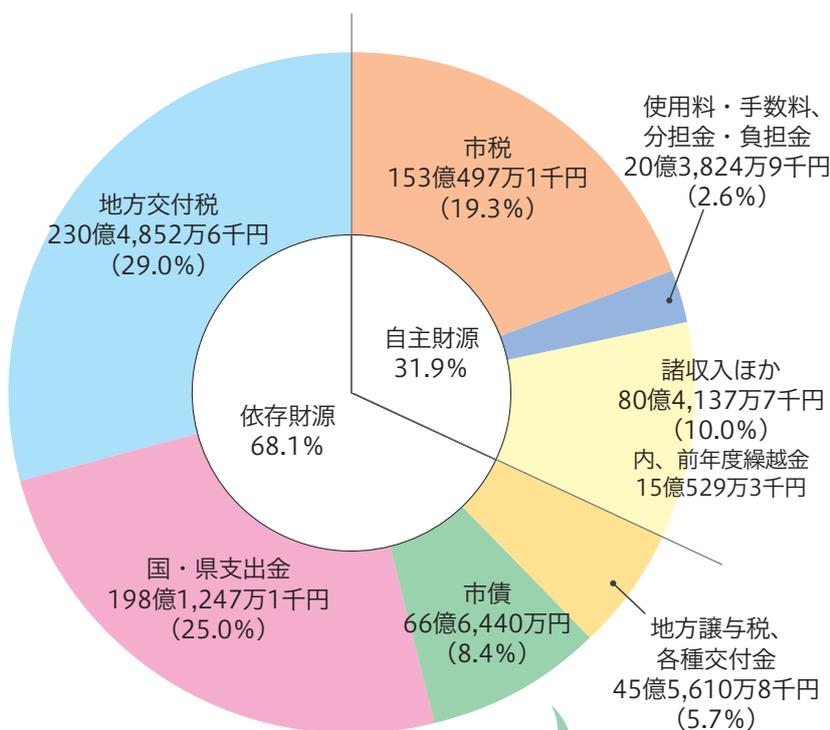
令和3年11月に県内最大級の広さを誇る人工芝アリーナの屋内多目的運動場（JA鶴岡だだちゃアリーナ）が完成しました。天候に影響されずに利用することができ、各種競技スポーツだけでなく、ウォーキングや親子連れの利用でもにぎわっています。

- 市の借金（市債）は、16.9億円減の798億円（5ページ）
- 市の貯金（積立基金）は、0.7億円減の174.9億円（5ページ）
- 企業会計では、病院事業の収益的収支が2年連続の黒字（6ページ）

普通会計歳入決算額 794億6,610万2千円

（対前年度 -131億2,720万5千円）

歳入の内訳



市債
合併特例債や過疎債、辺地債など後年度に有利な交付税措置が受けられる起債を最大限活用しています。

用語の解説

- **自主財源** 市税などの自主的な収入
 - 市税…市民税、固定資産税、軽自動車税、市たばこ税、入湯税、都市計画税など
 - 使用料・手数料…市の施設の利用料、証明書発行手数料など
 - 分担金・負担金…特定のサービスを受けた方が負担したお金
 - 諸収入ほか…貸付金の元金収入など
 - 前年度繰越金…前年度から繰り越したお金
- **依存財源** 国や県から定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入
 - 地方交付税…所得税等の国が徴収した税金の中から、市の財政状況に応じて交付されたお金
 - 国・県支出金…特定の事務・事業のための財源として、国や県から交付されたお金
 - 市債…投資的経費等に充てるため、国や金融機関から借りたお金
 - 地方譲与税…国が徴収した自動車重量税等から配分されたお金
 - 各種交付金…地方消費税交付金などの、国から配分されたお金

歳入額を市民1人あたりに換算すると 65万4,770円

市税などの収入	国からの収入	県からの収入	市債（借入金）	その他の収入
17万7,200円	31万7,023円	7万3,676円	5万4,912円	3万1,959円
 市税 12万6,107円 使用料・手数料 8,469円 分担金・負担金 8,325円 諸収入ほか 3万4,299円				・前年度繰越金 ・基金繰入金 ・寄附金 など

※令和4年3月31日現在の人口：121,365人で算出

令和3年度の決算を報告します

主なポイント

- 普通会計では、実質単年度収支が3年連続となる黒字（前年度と比べ10.4億円の黒字増加〈4ページ・6ページ〉）
- 1人につき10万円の特別定額給付金や、ごみ焼却施設の整備の終了などのため、歳入歳出とも大幅に減額（4ページ）

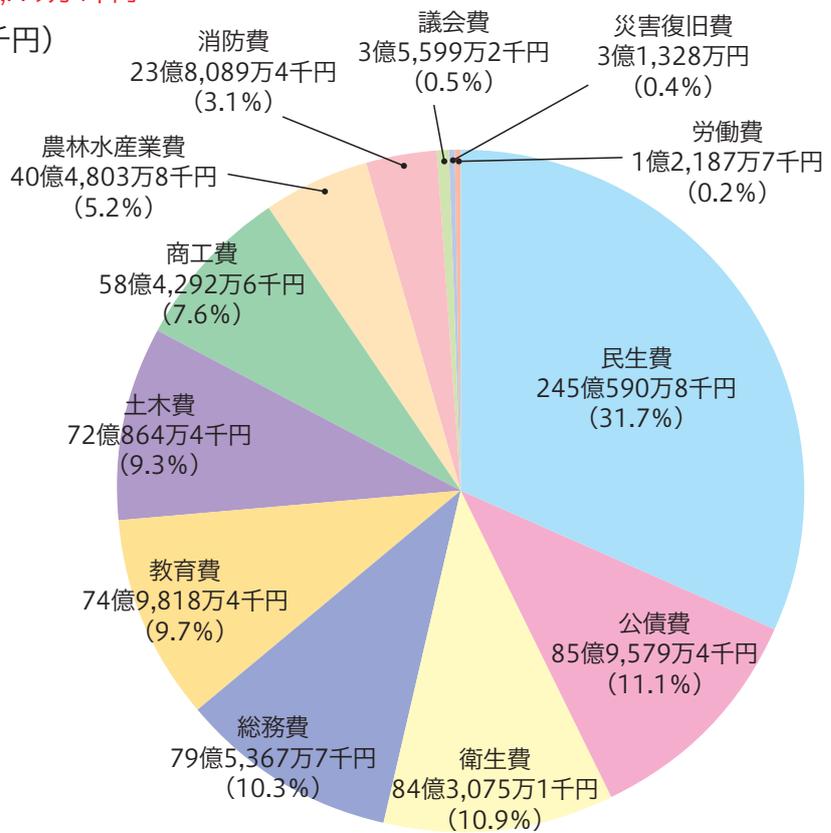
普通会計歳出決算額

772億5,596万5千円

内、新型コロナウイルス感染症対策関連74億3,779万4千円

（対前年度 -138億3,204万9千円）

歳出の内訳



用語の解説

- 民生費…福祉や保育などのお金
- 総務費…課税・納税、職員管理などのほか、総務・企画的な業務のためのお金
- 衛生費…健康増進やごみ処理などのお金
- 公債費…市の借金返済のためのお金
- 土木費…道路や橋の建設、除雪などのお金
- 教育費…教育などのお金
- 商工費…商工業や観光の振興のためのお金
- 農林水産業費…農林水産業の振興のためのお金
- 消防費…消防や救急、救助活動などのお金
- 災害復旧費…自然災害の復旧工事のためのお金
- 議会費…市議会の運営のためのお金
- 労働費…雇用対策などのお金

歳出額を市民1人あたりに換算すると 63万6,559円

民生費 20万1,919円	公債費 7万826円	衛生費 6万9,466円	総務費 6万5,535円	教育費 6万1,782円	土木費 5万9,397円
商工費 4万8,144円	農林水産業費 3万3,354円	消防費 1万9,618円	議会費 2,933円	災害復旧費 2,581円	労働費 1,004円

令和3年度の財政状況

令和3年度は、新型コロナウイルス対策に取り組みつつ、つるおかエール奨学金返済支援制度の創設等、最重要課題である少子化・人口減少対策をはじめとする第2次総合計画の実現に向けて、各種施策を推進しました。

新型コロナウイルス対策では、ワクチン接種の推進とともに、市民生活や地域経済対策として、74億円規模の支援施策に取り組みました。

合わせて、将来の市政運営を見据えて財政構造の健全化にも取り組み、普通会計の実質単年度収支は13億2,472万円と、3年連続の黒字を確保しています。

歳入歳出の主な状況は

歳入の中で自主財源では、市税が2億7,236万円の減となっています。これは、コロナ禍で収入が減少した中小事業者に対する固定資産税の軽減措置などで1億8,442万円の減となったことが主な要因です。

依存財源では、国税収入の増によって、地方交付税が17億1,834万円の増となっています。一方、1人10万円の特別定額給付金の終了やごみ焼却施設の整備完了により、国庫支出金や市債が減少し、歳入全体では、前年と比べて131億2,721万円の減となりました。

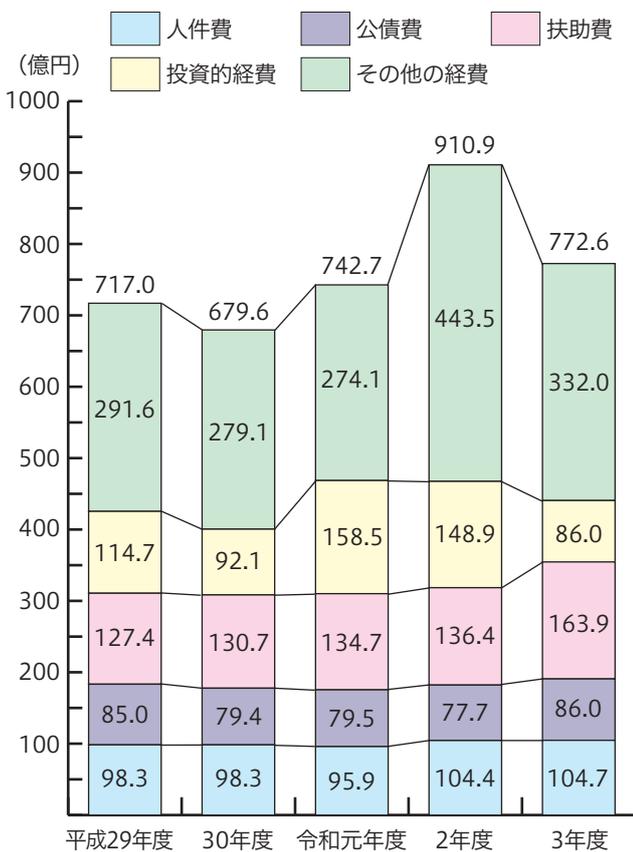
歳出についても同様に、全体で138億3,205万円の減となりました。義務的経費では、子育て世帯や住民税非課税世帯等への臨時特別給付金の増により扶助費が27億4,551万円の増となっています。また、公債費が8億2,834万円の増となりました。投資的経費では、普通建設事業費で、ごみ焼却施設整備事業、本庁舎耐震補強事業の完了により61億2,077万円の減となっています。

安定的な財政運営と施策の推進

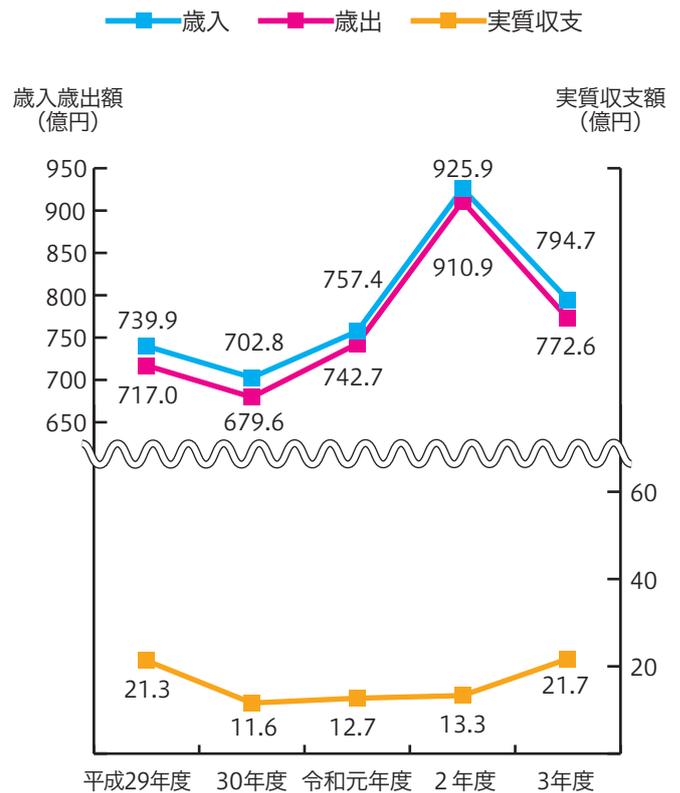
合併以降受けてきた地方交付税の優遇措置が令和2年度をもって終了するとともに、公債費が増加するなどしています。このため市では、第3次鶴岡市行財政改革大綱実施計画に基づき、事務事業の見直し等による経常経費の縮減や、歳入確保の取り組み、また、定員の適正管理やICT・デジタル技術を活用した業務の効率化などに取り組んでいます。

今後も総合計画、予算編成、行財政改革等、行政システムの一体的な運用による効果的で効率的な行財政運営を図りながら、各種施策の着実な推進を図るとともに、人口減少対策等の喫緊の課題や自然災害、新型コロナウイルス対策など的確に対応していきます。

普通会計の性質別歳出額の推移



普通会計の歳入歳出額と実質収支額の推移



鶴岡市の貯金額は？

積立基金(貯金)の総額
174億8,760万4千円
(対前年度 -7,205万5千円)

市民1人当たり
14万4,091円

用語の解説

財政調整基金 年度間の財源の不均衡を調整するための基金。経済不況等による大幅な税収減や、災害の発生等による支出の増加などへの備えとして積み立てている

減債基金 地方債の償還及びその信用維持のために設置する基金。公債費の償還を計画的に行うために積み立てている

地域振興基金 合併市町村が地域住民の一体感醸成や地域振興を目的に設置する基金

緊急経済対策金融支援基金 新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策に係る利子補給等に必要な財源を確保する基金

積立基金の総額は、対前年度7、205万5千円の減となりました。
これは財政調整基金に1億9、453万円、地域まちづくり未来基金に1億9、022万6千円を積み立てた一方で、金融対策事業に充てるため緊急経済対策金融支援基金を2億421万4千円、地域まちづくり未来事業に充てるため地域まちづくり未来基金を1億7、936万1千円、加茂水族館改築事業に充てるため加茂水族館整備振興基金を9、927万5千円取り崩したことなどによるものです。
必要な事業への財源活用や財政の安定化のため、適切な基金の取り崩しと、目的に応じた基金への積み増しによって、基金の維持拡充を図っていきます。

積立基金の状況(種類と年度末残高)

	令和元年度末	令和2年度末	令和3年度末
財政調整基金	44億6,686万円	44億8,102万円	46億7,555万円
減債基金	40億6,549万円	40億8,453万円	41億98万円
その他の特定目的基金			
地域振興基金	33億円	30億4,000万円	30億4,000万円
公共施設整備基金	28億5,008万円	27億7,269万円	27億869万円
加茂水族館整備振興基金	13億8,091万円	13億4,288万円	12億4,500万円
緊急経済対策金融支援基金	-	6億1,200万円	4億804万円
地域まちづくり未来基金	4億8,107万円	5億3,211万円	5億4,297万円
その他	7億1,601万円	6億9,443万円	7億6,637万円
小計	87億2,807万円	89億9,411万円	87億1,107万円
合計	172億6,042万円	175億5,966万円	174億8,760万円

鶴岡市の借金額は？

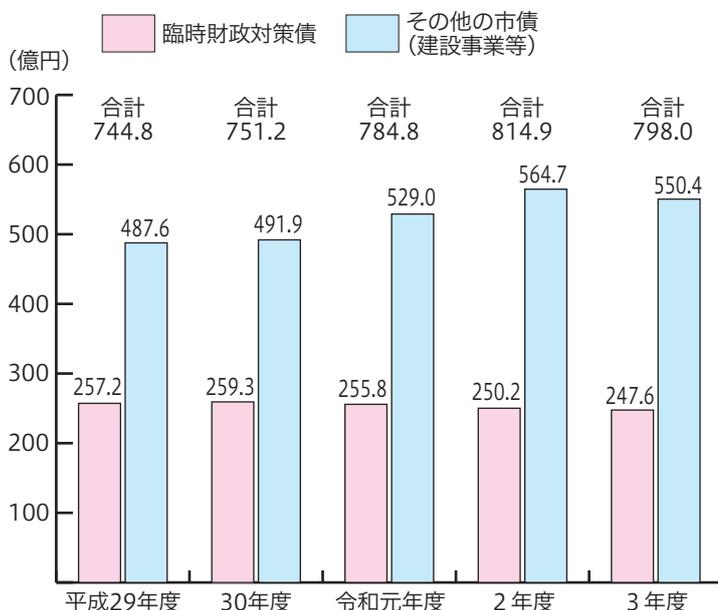
市債(借金)残高の総額
797億9,861万4千円
(対前年度 -16億8,783万6千円)

市民1人当たり
65万7,509円

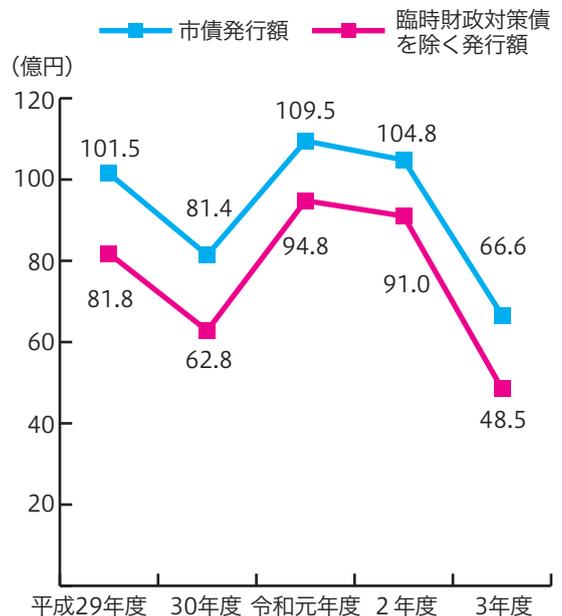
市債の残高は、対前年度16億8、783万6千円の減となりました。

この要因は、大規模投資事業に係る市債の発行が一段落した一方で、将来の財政負担軽減を図るために、令和3年度も繰上償還を実施したことによるものです。なお、この借金の中には、その全額が交付税措置される臨時財政対策債(★)も含まれ、それを除いた市債の残高は550億4、175万2千円で、対前年度14億3、137万7千円の減となっております。また、借金をする場合でも、合併特例債や過疎債・辺地債などの交付税措置のある有利な起債を最大限活用し、将来負担の軽減を図っています。

市債残高の推移



市債発行額の推移



★臨時財政対策債
一般財源の不足を補うために特例で発行される市債。その全額が国から交付税措置される

普通会計決算収支の状況

令和3年度は、歳入は地方交付税やふるさと寄附金が増収となり、また経費節減など歳出抑制の効果なども現れ、実質単年度収支は前年度に引き続き黒字となりました。引き続き、歳入と歳出のバランスを保ち財政の健全化に努めます。

	令和3年度	令和2年度	増減
歳入決算額 ①	794億6,610万2千円	925億9,330万7千円	▲131億2,720万5千円
歳出決算額 ②	772億5,596万5千円	910億8,801万4千円	▲138億3,204万9千円
形式収支 ③=①-②	22億1,013万7千円	15億529万3千円	7億484万4千円
翌年度に繰越すべき財源 ④	3,829万6千円	1億7,795万6千円	▲1億3,966万円
実質収支 ⑤=③-④	21億7,184万1千円	13億2,733万7千円	8億4,450万4千円
単年度収支 ⑥=⑤-⑤'	8億4,450万4千円	5,620万8千円	7億8,829万6千円
財政調整基金積立金 ⑦	1億9,453万円	2億1,416万5千円	▲1,963万5千円
繰上償還金(★) ⑧	2億8,568万6千円	2億1,370万8千円	7,197万8千円
財政調整基金取崩し額 ⑨	—	2億円	▲2億円
実質単年度収支 ⑩= ⑥+⑦+⑧-⑨	13億2,472万円	2億8,408万1千円	10億4,063万9千円

⑤'…前年度の実質収支

★繰上償還金

今後の財政負担の軽減を目的に、後年度に返済予定の市債の元金を前倒して返済するもの

特別会計

特定の事業を特定の収入で賄う会計です。収支を明確にするため一般会計とは経理を別にします。

会計名等	歳入決算額	歳出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容
国民健康保険特別会計(事業勘定)	142億6,598万円	123億3,694万円	8億1,554万円	国民健康保険の円滑な運営
国民健康保険特別会計(直診勘定)	4,056万円	4,046万円	2,510万円	上田沢・大網診療所の運営
後期高齢者医療保険特別会計	16億7,187万円	16億6,684万円	4億7,648万円	後期高齢者医療保険の円滑な運営
介護保険特別会計	169億3,612万円	157億8,460万円	22億1,457万円	介護保険の円滑な運営
休日夜間診療所特別会計	4,953万円	4,953万円	3,601万円	休日夜間・休日歯科診療所の運営
墓園事業特別会計	1,631万円	123万円	—	鶴岡墓園等の管理運営

ここでは特別会計と企業会計の決算をお知らせします。これらの事業は営利目的ではなく公益的であるため、収入が不足する場合は一般会計からの繰出金を受けて運営しています。

特別会計と企業会計の決算

企業会計

民間企業と同様に、事業の収益によって運営している会計です。地方公共団体が経営する企業を「地方公営企業」と言い、本市では病院、水道、下水道の3つの企業会計を設けています。

会計名等	収入決算額	支出決算額	一般会計繰出額	主な事業の内容	
病院事業	収益的収支	145億9,664万円	138億585万円	11億1,373万円	病院事業の運営
	資本的収支	12億9,797万円	18億2,423万円	9億1,771万円	病院施設の整備等
水道事業	収益的収支	33億9,895万円	29億4,295万円	2,276万円	水道事業の運営
	資本的収支	8,956万円	13億6,599万円	1,914万円	水道施設の整備等
下水道事業	収益的収支	56億5,621万円	58億2,745万円	11億4,711万円	下水道事業の運営
	資本的収支	41億2,223万円	57億1,198万円	14億3,952万円	下水道施設の整備等

財政健全化判断比率等

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、財政健全性に関する比率（健全化判断比率、公営企業の資金不足比率）を公表しています。各比率が基準を超えた場合は、財政健全化計画の策定等が義務付けられます。

鶴岡市の状況は表①のとおりです。

○実質公債費比率

地方公共団体の資金繰りの危険度を示す指標です。公債費のほかに公営企業債に対する繰出金や一部事務組合の公債費に対する負担金等を含めた実質的な公債費相当額が、標準財政規模（★）に占める割合を指します。

3年度は6・1%で、対前年度で0・3ポイント上昇しました。

○将来負担比率

将来の財政を圧迫する可能性についての指標です。実質公債費比率の対象となっている公債費等に加え、第三セクターの負債の内、市が損失補償や債務保証をしているもので経営状況等に応じて見込んだ負債額を合算した将来負担額が、標準財政規模に占める割合を指します。

3年度は、公営企業債残高の減少などにより、対前年度で5・7ポイント改善して44・8%になりました。この水準は、早期健全化基準350%を大きく下回っていることから、将来の財政運営に支障を来す状況ではないと判断されます。

★標準財政規模

その地方公共団体が標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模を示すもので、通常水準の行政サービスを提供する上で必要な一般財源の目安

財政健全化判断比率等 表①

単位：%

指標	指標の意味	鶴岡市の数値	早期健全化基準 (黄色信号)	財政再生基準 (赤信号)
財政健全化判断比率	実質赤字比率	- ※1 (-)	11.45 (11.48)	20.00
	連結実質赤字比率	- ※2 (-)	16.45 (16.48)	30.00
	実質公債費比率	6.1 (5.8)	25.0	35.0
	将来負担比率	44.8 (50.5)	350.0	
資金不足比率 (公営企業会計ごと)	公営企業ごとの経営状況の深刻度を示す指標	- ※3	経営健全化基準 20.00	

()内は2年度の数値

- ※1…本市の普通会計で実質赤字額は生じていない。
- ※2…本市の一般会計、特別会計等の全体で実質赤字額は生じていない。
- ※3…本市の全ての公営企業会計で資金不足額は生じていない。

今後の課題

これからの財政運営

【合併特例期間が終了】

地方交付税の優遇措置が終了しました

平成28年度から5年を掛けて段階的に縮減されてきた地方交付税の優遇措置が、令和2年度をもって終了しました。合併特例債の発行可能残額は約20・7億円（令和3年度決算時）

合併特例債は、事業費に対する起債の割合や、交付税算入率などでほかの起債より有利な起債です。令和7年度まで発行可能ですが、発行可能額が残り少なくなっています。

【今後の財政運営は？】

更なる行財政改革に取り組みます

○安定的な収入を増やす

歳入は、国・県の交付金や市債等の依存財源に頼っています。安定的な収入となる自主財源の確保に向けて、税源の向上、受益者負担の適正化を一層図っていく必要があります。

す。また、ふるさと寄附金の増収に努めます。

○歳出を減らす

職員配置の適正化によって、必要な施策を着実に実施できるように体制整備を図りながら、事務事業の更なる効率化を図ることで、経常経費を一層節減しながら、適正な優先度に基づき投資事業の実施に努めていく必要があります。

○基金を活用する

地方交付税の縮減に備え、平成22年以降に生じた黒字分を基金に積み立ててきました。安定的な財政運営のために財政調整基金など各種基金の適切な水準維持に努めながら、有効に活用していきます。

今後も、対話を重視し、市民本位の視点からの行財政改革に積極的に取り組むとともに、コロナ禍や原油価格・物価高騰等による社会経済活動の変化による本市財政への影響も考慮しながら、より一層の財政の健全化に努めます。市政の振興・発展と安全・安心な市民生活の維持向上のために必要な各種施策に着実に取り組んでいきます。

令和3年度の主な事業



保育料負担軽減事業

子育て世帯の経済的負担を軽減するため、国の無償化制度の対象とならない第3子以降の保育料や副食費について、市独自で無償化を行っています。令和3年9月からは、世帯年収が470万円未満の0歳～2歳児の保育料を無償化し、更に子供を生き育てやすい環境づくりに取り組んでいます。



酒井家庄内入部400年記念プレ事業

令和3年度は酒井家庄内入部400年のプレ年度。地域の歴史を見詰め直す歴史講演会や子ども記者プロジェクト等を通じ、シビックプライドや地域愛の醸成を図るとともに、観光誘客によるにぎわい創出の取り組みを進めました。



山形県PCR自主検査センターの開設

新型コロナの感染拡大地域との往来などで、感染の不安がある方が検査を受けられる「PCR自主検査センター」を、山形県から委託を受け、令和4年2月1日に荘内病院に開設しました。



新型コロナウイルスワクチン接種事業

鶴岡地区医師会や関係機関等と連携し、個別医療機関及び集団でのワクチン接種を実施し、新型コロナウイルス感染症のまん延防止と重症化予防に努めています。



認知症家族介護者支援事業

認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせるように、本人や家族、地域の方も気軽に参加し、認知症について一緒に学び話し合える場として「認知症カフェ」の取り組みを進めています。



奨学金返済支援事業

若者の地元回帰と地元企業等の人材確保を促進するため、大学等進学者の奨学金返済支援を県と協調して実施。令和3年度に本市が開始した「つるおかエール奨学金返済支援制度」では、学生卒・社会人卒合わせて94人の応募がありました。



オリンピック・パラリンピック推進事業

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のホストタウンとして事前合宿の実施や、共生社会の実現に向けたパラスポーツの普及・促進に取り組みました。また、アーチェリー競技でオリンピック出場を果たした中村美樹選手を支援するなど、オリンピック・パラリンピックの機運醸成を図りました。



鶴岡市一般廃棄物最終処分場の整備

平成30年度から実施していた、新たな一般廃棄物最終処分場の整備工事が令和3年9月に完了。10月から、周辺の環境保全に配慮しながら、ごみ焼却施設の焼却灰と、リサイクルプラザのリサイクルできない不燃残渣を埋立てしています。



産業人材育成支援事業

4月から社会人となる高校3年生やこれから就職活動を迎える高校2年生を対象に、社会人として必要な知識やビジネスマナー、各産業の仕事内容などについて説明するセミナーを実施しました。



松ヶ岡開墾場蚕室活用整備事業

本市近代化の礎となった絹産業の歴史と文化に触れ、シルクを楽しみながら学べるように、史跡松ヶ岡開墾場4番蚕室を、絹織物体験施設「シルクミライ館」として整備しました。



コミュニティセンター整備事業

耐震基準不足や、老朽化が著しいコミュニティセンターについて、今後も地域活動の拠点として活用できるよう、計画的に改築を行っています。

令和3年度は、加茂コミュニティ防災センターの移転改築工事の着工、大山コミュニティセンターの改築工事実施設計を実施しました。



凍霜害・雹害緊急対策事業

令和3年4月の凍霜害、同5月のひょう害による被災農業者が次期作の営農を継続できるよう、防ひょうネットや肥料・農薬の購入支援、被災農産物を活用した加工品の製造・販売支援など緊急対策事業を実施しました。

令和3年度に各地域の特性を生かして実施した事業を紹介します。

〈鶴岡地域〉



鶴岡地域まちづくり未来事業

第二学区では、歴史や文化の理解を深め、地域の誇りを育てることを目的に「天神祭を中心とする活力ある地域創生プロジェクト」に取り組みました。朝陽二小の児童が調べまとめた見所や描いた文化財等の絵を基にした「まち歩きマップ案内板」の作成や、文化財巡りを行いました。

〈羽黒地域〉



松ヶ岡開墾150年記念事業

松ヶ岡開墾150年を記念し、kibiso (キビソ) のデザインを手掛けるテキスタイルデザイナー須藤玲子氏の特別展覧会を開催。また、須藤氏と本市の日本遺産アドバイザーである中山ダイスケ氏の対談を行いました。

〈朝日地域〉



朝日地域若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト事業

若い世代が希望を持てる地域作りを目指し、若者たちによるプロジェクトチーム“WaGeSho (ワゲショ)”を立ち上げ、ワークショップ等を開催。若者同士のネットワークの形成による人材育成の環境作りに取り組みました。

〈藤島地域〉



長沼・八栄島地区地域公共交通導入事業

公共交通空白地域だった長沼地区・八栄島地区で令和3年6月、待望のデマンドタクシーの運行を開始しました。愛称は、運行主体の両地区運営協議会が募集し「すまいる号」に決定。地域住民に親しまれ、多くの人に利用される公共交通を目指し取り組んでいます。

〈櫛引地域〉



くしびきフルーツ振興プロジェクト事業

ひょう害被災農家を支援するため、市内飲食店等と連携し、フルーツ加工品の商品開発事業「くしびき☆えくぼフルーツフェア」を実施しました。また、「くしびきフルーツ日記」による情報発信事業などに取り組みました。

〈温海地域〉



あつみ温泉集客イベント実施事業

弘仁12年(821)のあつみ温泉の発見から、1,200年の節目の年であることを記念し、記念式典とお湯輿まつりを開催。巫女舞や子供獅子舞の演舞、お湯輿の巡行、竹あかりの点灯式が行われました。

鶴岡市の財政・決算及びこの特集についての問合せは本所財政課へ
☎25 - 2111内線350、✉zaisei@city.tsuruoka.lg.jp

